

平成30年度COC+シンポジウム
オールやまがたによる若者定着を目指して

【地域に人材を残す取組み】

山形大学と

山形県中小企業家同友会の

連携インターンシップの取組み

中小企業の課題(少子高齢化 人口減少の時代)



2

- 人口減少時代、マーケットが縮小していく中で、売上という課題はありますが、新規人材の確保・育成も大きな経営課題となっています。
- 特に中小企業にとって、自社の業務や社風に合う若い人材をどう見出し、どうやって採用するかが課題です。
- また、採用後の人材育成にどう取り組むのかという課題もあります。



インターンシップへの注目



3

- この経営課題の解決策としてインターンシップ(就業体験)が大変注目されています。
- 現在、**国を挙げてインターンシップの推進**が図られています。
- ここで言うインターンシップとは「学生が在学中に自らの専攻・将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と定義されており、**「就職直結」ではなく「教育」の一環として位置付け**られています。

同友会の考えるインターンシップとは



4

- 中小企業を日本経済の主役と位置付ける同友会にとって、インターンシップへの取組みは産学官連携の一環であり「同友会理念」を柱にした「共に学び育ちあう環境」を地域にもつくっていく活動です。
- その事は中小企業に対する「正しい認識」や「すばらしい魅力」を教育機関と連携しながら地域に広め若者を残し、育てられる地域をつくる「社会教育運動」なのです。
- また、運動を広める会員企業にとっては経営者も含め、社員の意識の変革を促し、自社を見直す良いきっかけとなります。

同友会が考えるインターンシップとは

5

【学生にとって】

- 1、**自立**を促すきっかけとなる。
- 2、**働く事の楽しさ**を実感する
- 3、就職、**企業のイメージが豊か**になる。
- 4、**問題意識が磨かれ、学習意欲が引き出される。**
- 5、**コミュニケーションの大切さ**を理解する。
- 6、**中小企業を知る機会**となる。
- 7、**企業家精神を学ぶ事**ができる。



同友会が考えるインターンシップとは



6

【学校にとって】

- 1、インターンシップでの学生の変化や成長を通して学校教育の内容を再考するきっかけとなる。
- 2、進路指導にあたる先生や学校自体の視野が広がる。
- 3、中小企業についての理解を広げ日本の経済社会についての認識を深める。
- 4、**地域の課題を中小企業と一緒に解決する契機となる。**

同友会が考えるインターンシップとは



7

【企業にとって】

- 1、経営者が経営理念を改めて考えるきっかけになる。
- 2、**自社の人材育成につながる。**
 - ・受け入れ態勢を整備する事で社内体制の見直しの契機となる**(採用力の強化)**。
 - ・学生に仕事をわかりやすく説明する為に経営理念と自らの仕事のかかわりを見直す**(職業観の醸成)**。
 - ・社会や地域に貢献する事の理解が全社的に広がり、仕事に誇りが持てるようになる。
- 3、自社についての正しい理解が広がり、学生が就職対象として考えるようになる。

同友会が考えるインターンシップとは



8

【地域にとって】

- 1、学生に地域に根づく産業や企業を知る機会となり**地域の雇用につながり若者が残る。**
- 2、地域の教育機関、行政、地元企業の連携が促進され、産官学が一体となった地域づくりにつながる。



同友会が考えるインターンシップとは



9

【同友会にとって】

- 1、同友会活動への理解を広げ、教育機関・行政・地域との信頼関係を築いていくものとなる。
- 2、中小企業についての正しい理解が広がり、**学生が就職対象として中小企業を考えるようになる。**
- 3、同友会理念を学校や学生を通して社会に広げ、**企業観・社会観・職業観**などを変えていく事につながる。
- 4、学校や行政との対応で役員や事務局自身の力量が試され、成長の機会となる。



- 山形県中小企業家同友会と山形大学では、平成26年度から短期インターンシップ「フィールドワーク 山形の企業の魅力(プレインターンシップ)」を実施してきました。
- この授業は、3年次以降の本格的なインターンシップ前のプレ体験と位置付けており、**受講生は1年次の学生**で、インターンシップ**期間は3日間**となっています。

山形大学との連携【大学側】



【山形大学と連携】

- ・同友会と**連携協力協定を締結**。
- ・担当教員が同友会理事会に参加し**教育目的を共有**。
- ・同友会事務局が受入企業を選定。
- ・受入企業のマッチングはランダムに大学側が決定。
- ・事前・事後学習(報告会)にも受入企業が関与。



山形大学との連携【大学側】



12

【山形大学のねらい】

山形大学では多くの学部で3年次以降にインターンシップ(就業体験)を導入しており、様々な企業や団体での活動に参加することで単位認定を受ける事ができます。

これは本学の教育目的に則り、インターンシップを通じて、学習意欲と就職に対する意識を一段と高め、実社会で必要とされる職業意識、自立心と責任感を育成し、実践する能力を育成することを目的としています。

そこで本授業では、2、3年次以降の本格的なインターンシップ前のプレ体験として、山形県中小企業家同友会加盟企業での短期インターンシップに参加してもらいます。

また中小企業で働く人たちの想いに触れ、中小企業に対する理解も合わせて深めてもらえることを期待しています。

【到達目標】

インターンシップ体験を踏まえて、働くことはどのようなことかを説明できる。

山形大学との連携【企業側】



13

【インターンシップ受入企業の課題】

- ・インターンシップの受入計画がわからない？
- ・インターンシップでどう社員教育をするのか？
- ・そもそもインターンシップをしたことがない、何か知らない

【受入プログラムの企画・設計の負担軽減に対する取組】

- ・他社のプログラム事例共有や勉強会の実施
- ・基本フォーマットの開発と活用
- ・受入企業が増加(H26年度13社→H30年度31社)

受入プログラムの企画・設計



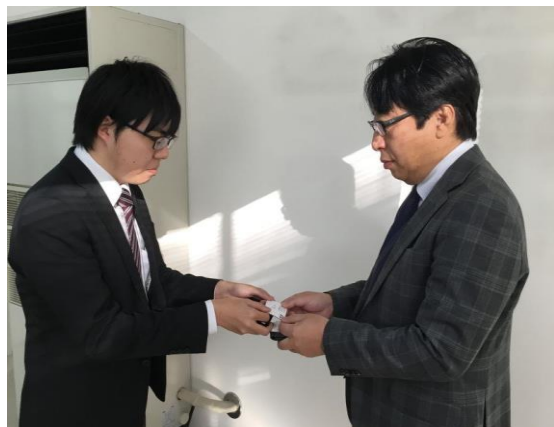
14

【インターンシッププログラムの作成と流れ】

- 1、**大学側と目的を共有**
- 2、**受入学生と事前に面談し目的・目標を確認する。**
- 3、**プログラム(シート)作成**
 - **自社について経営指針を軸に理解を深める。**
 - **自身の社会人としてのマインドを整理する。**
 - **自社の目標から自身の目標まで再確認し、学生の目的・目標とすり合わせしながら実習計画を作成する**
 - **上席に実習の報告をする**

(プログラムシートは資料2に添付しています)

インターンシップ 初日研修



山形大学との連携【受入企業の成果】



16

- ・特に若手社員の**プレゼン能力・表現力が豊かになった。**
- ・社員ひとり一人が自分の仕事に対する**誇りと自信が更に高まった。**
- ・自分達が携わっている**仕事について意義をとらえ直す機会になった。**
- ・今までは「見て学べ」のスタイルから、**教わる、教えるの関係性への変化の第一歩を踏めた。**
- ・**自主的に**社内の置き場等も「表示」を作成するようになった。
- ・主に事務系の社員について、**実際の業務をわかりやすく的確に伝える能力が身についたと感じる。**
- ・業務マニュアルを**自主的に**作成するなどの成長があった。
- ・インターンシップに限らず、会社見学等の**受入に抵抗が無くなった。**



山形大学・山形同友会連携
低学年インターンシップ

文部科学省インターンシップ表彰
最優秀賞受賞

山形大学との連携【課題】



18

【今後の受入企業の課題】

- ・受入れの準備(プログラムの企画・設計など)(40.9%)
- ・指導役を務める社員の負担(36.4%)

【双方における課題】

- ・継続的な取組みとレベルアップ
- ・受入企業をより広域に拡大
- ・40社80名以上の受入
- ・受入企業の満足度等の数値化



まとめ



少子高齢化、人口減少、若者の県外流出など我々地元中小企業は人材不足・労働力不足に悩んでいます。

この事は個社別の課題ではなく地域の課題です。

しかしながら我々中小企業は採用をはじめとした組織づくり、教育という面ではまだまだ不十分であり、今後取り組むべき課題となっています。

そしてこの2つに有効なのがインターンシップと考えており、採用に直結しなくとも、受入にチャレンジし、組織活性、採用の土壌作り、社員教育、自社の広報などを図っていかねばならないと感じています。

またこの取組みは個社別ではなく、**大学との連携がとても有効**だと感じており、今後、連携先も増やしていきたいとも考えています。

地域に人材を残す事はそこに暮らすあらゆる人に影響する課題です。

我々中小企業家同友会は、様々な連携などの取組みを積極的に行い、「共に学び育ちあう環境」を地域にも作り、持続可能な地域社会作りに取り組んでいきたいと考えています。



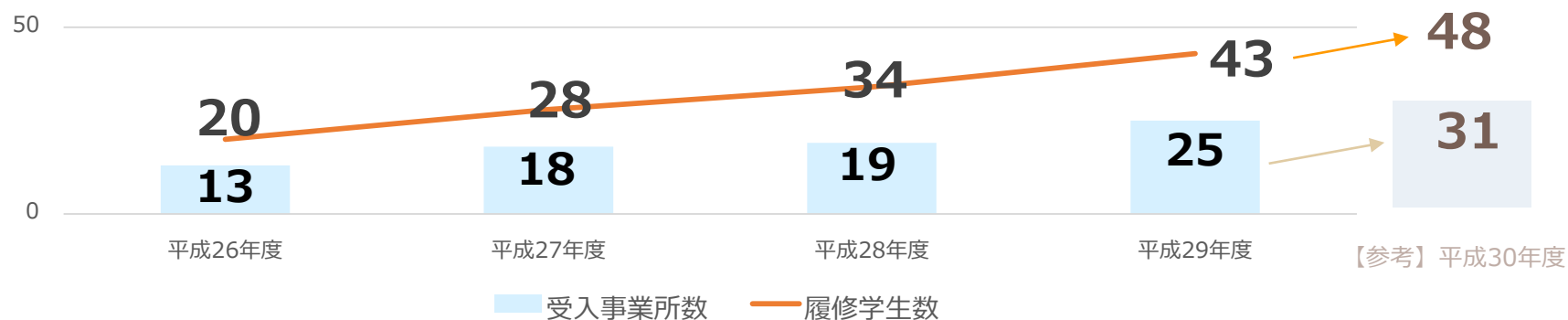
0

資料1

【資料提供】
山形大学 学術研究院
小白川キャンパス キャリアサポートセンター
准教授 松坂 暢浩 氏

【補足】本インターンシップの履修学生および受入事業所の推移

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
履修学生数		20	28	34	43
所属	人文社会科学部（人文学部）	9	5	9	2
	理学部	2	3	3	2
	医学部	0	0	0	5（医学科3名、看護学科2名）
	工学部	2	5	5	23
	農学部	4	11	1	11
	地域教育文化学部	3	4	16	0
性別	男性	9	18	11	27
	女性	11	10	23	16
文理	文系	12	9	25	2
	理系	8	19	9	41
出身	山形県出身者	6	5	12	14
	山形県外出身者	14	23	22	29
受入事業所数		13	18	19	25



【本インターンシップの教育的効果】

社会人基礎力の伸長 **3.4→4.0**

キャリア意識の向上 アクション **18.4→19.1**
ビジョン **20.9→21.5**

学生の参加満足度 **98%**

中小企業のイメージ向上 **88%**

様々な機会に取り上げられている

- ①文部科学省（2016）「インターンシップ好事例集 -教育効果を高める工夫17選-」
- ②日本学生支援機構（2018）「地域連携型インターンシップの実施事例（山形大学）」
- ③日本インターンシップ学会東日本支部監修（2017）『インターンシップ実践ガイド』
- ④『PRESIDENT』（2018年10月1日号）
- ⑤中小企業家同友会全国協議会「中小企業家しんぶん」（2017年10月15日号）
- ⑥中小企業家同友会全国協議会「第50回定時総会in 宮城」分科会で事例報告（2018年7月）

履修者アンケート結果 (2017年度履修者 n=43)

Q.この授業を受講して、全体として満足できましたか？

項目	回答数	割合 (%)
大変満足している	34	79.1
満足している	8	18.6
どちらともいえない	1	2.3

満足度

97.7%

大変満足している、やや満足している の合計

コメント (抜粋)

- 今回のインターンシップでは、初めての経験ばかりで3日間毎日がとても新鮮で仕事の大変さや働くことのやりがいを知ることができ、自分に足りないことを見つけ、将来についてもっと考えていかなければならないと感ずることができました。
- ただ、礼儀を学ぶだけでなく、おもてなしをすることは、相手に幸せを与えるだけでなく、自分にとっても生きがいと幸せを感じることができるということを学びました。
- インターンシップ中に社員さんから仕事の在り方について教えていただき、仕事は目的ではなく、手段であることを理解した。
- 「学び」が社会に出ても重要であること。「学び」自体がゴールではなく、それをどう自分の成長に結びつけていくかが重要だという事を学んだ。

履修者アンケート結果 (2017年度履修者 n=43)

Q. インターンシップ参加前に立てた目標は達成できましたか？

項目	回答数	割合 (%)
かなり達成できた	12	27.9
やや達成できた	26	60.5
どちらともいえない	4	9.3
あまり達成できなかった	1	2.3

達成度

88.4%

かなり達成できた、やや達成できたの合計

コメント (抜粋)

- 参加前はマナーや社会人としての行動や、仕事について学びたいという目標を立てたが、インターンシップを通し、社会人としてのマナーや働くことについてだけでなく、人生を送る上での大切さなど、自分の学びたかったこと以上のことを学ぶことが出来た。
- 参加前に中小企業のイメージの明確化という目標を立て、インターンシップ中に中小企業の雰囲気を感じ取り、自分なりに中小企業のイメージを明確にできたから。
- インターンシップ参加前に、働くとはどのようなものかを実際に体験し学びたいという目標を立てていたのですが、実習の中で工事現場や企業への営業に同行させていただいて、職人技を間近でみて凄さを実感したり、仕事をする中での人との関わり出合いの大切さを知ることができ、よい体験と学びが出来たと感じている。

履修者アンケート結果 (2017年度履修者 n=43)

Q.インターシップを体験し、自分にとっての「働く」理由が説明できるようになったか？

項目	回答数	割合 (%)
かなりできている	7	16.2
ややできている	27	62.8
どちらともいえない	6	14.0
あまりできていない	3	7.0

働く理由
の説明

79.0%

かなりできている、ややできている の合計

コメント (抜粋)

- 私にとって働くとは、人生の大部分であり、自分を強くするものです。働く期間は学生の期間より遙かに長く、その中でさまざまな成功や失敗をし、それを通して自分を成長させ、自分を強くさせることができると思ったからです。
- 私にとって「働く」とは、“自分の人生をより良くしてくれるもの”であると思う。今回のインターンシップで普段経験できない様々なことをさせてもらい、その中でやりがいと達成感を感じることができた。生活のために働くのは当たり前のことではあるが、それだけでなく仕事の中で感じたやりがいや達成感、また経験したことや得たものが自分の人生をより良いものにしてくれると感じたから。
- 私にとって働くとはお金を稼ぐことだけでなく、自分自身を磨くことだと思いました。

履修者アンケート結果 (2017年度履修者 n=43)

Q.インターシップを通して、中小企業のイメージに変化がありましたか？

項目	回答数	割合 (%)
かなり変化した	25	58.1
やや変化した	13	30.2
どちらともいえない	1	2.3
あまり変化していない	4	9.3

中小企業の
イメージ変化

88.3%

かなり変化した、やや変化した の合計

コメント (抜粋)

- 以前は大企業に就職することがすごいことであるという勝手なイメージを持っていた。しかし、社長から働くことの意義や会社とは自分を成長させる場であるという話を聞き、大企業で働くことだけが良いことなのではないと気付いたから。自分の会社に誇りを持っていて、とてもかっこよく感じた。
- 以前中小企業に持っていたイメージは人数が少ない、休みがない、給料が少ないなどマイナスなイメージが多かった。今は地域に貢献できる点や職場の社員同士の距離の近さなどプラスなイメージを持つようになった。
- 以前持っていたイメージは、社内の雰囲気は緊張感のある、張り詰めたような場所であった。参加後にイメージが、アットホームで温かい雰囲気に変化したから。

初年度（平成26年度）履修20名の進路状況

就職内定者11名（55.0%）

→そのうち中小企業5名（25.5%）

※ 中小企業基本法の定義による中小企業への内定者

※ 山形県内就職者3名、うち県内中小企業就職者2名

就職以外の進路状況

1) **大学院進学4名（20.0%）**

2) **その他（留年、休学、退学）4名（20.0%）**

3) **未就職（活動中）1名（5.0%）**

※ 未就職者1名は留学生

資料2

山形県中小企業家同友会
インターンシッププログラム

インターンシッププログラム【2】自社概要

社名	
業種	〇〇〇（日本標準産業分類業種コード〇〇〇〇〇〇）
創業	明治〇〇年〇〇月〇〇日（現在創業〇〇年〇〇ヶ月）
社員数	〇〇〇名（男性〇〇名 女性〇〇名 パート〇〇名）
会社の歴史や社名の由来、創業者の想い	
経営理念	
10年ビジョン	
経営方針 （中長期・単年度）	
経営戦略 （中長期・単年度）	
受入部門方針	
受入部門戦略	
個人目標	

【自社概要】

自社の歴史、経営理念、10年ビジョンや方針・戦略を書き込む事で自社についての更なる理解を深め、組織の目的目標を再確認し自身が何をすべきかを再認識するシートです。主に経営指針の柱となるものを入れています。

インターンシッププログラム【3】社会人としてのマインド

社会とは何か	
会社とは何か	
自社の存在価値は何か	
自分にとって働くとは何か	
自分にとって働きがいとは何か	
自分はどんな社会人を目指しているのか	
自社と地域はどう繋がっているか	
中小企業と大企業の違いや中小企業の良いところは何か	
学生に自社やその業界、中小企業についてどんなイメージを持って欲しいか	

【社会人としてのマインド】

働くとは何か、働きがいとは何か、自社と地域との関係は何かなど社会人としてのマインドを整理するシートです。

目指すべき自分像を描き、また学生に対して伝えるべきことを整理するシートとなっています。

インターンシッププログラム【4】実習計画

学校学部学科年		
学生氏名	〇〇〇〇 (男・女)	
受入期間	平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇) ~平成〇〇年〇〇日 (〇)	
就業時間	〇〇:〇〇~〇〇:〇〇	
受入部門・場所		
受入目的	自社の受入目的	
	部門の受入目的	
	担当者自身の受入目的	
	担当者自身の受入目標	
	学生の目的	
	学生の目標	
	実習の目的	
	実習の目標	
スケジュール	午前	午後
〇〇月 〇〇日 (〇)		
〇〇月 〇〇日 (〇)		
〇〇月 〇〇日 (〇)		

【実習計画】

インターンシップ受入による自社・部門・自身の目的や目標を整理し学生の目的目標とすり合わせしながら実習の目的目標の設定をし、スケジュールを作成するシートです。

インターンシッププログラム【5】実習報告

スケジュール		実習の成果と課題	担当者の学び
〇〇月 〇〇日 (○)	午前		
	午後		
〇〇月 〇〇日 (○)	午前		
	午後		
〇〇月 〇〇日 (○)	午前		
	午後		

上席者からのフィードバック

--

【実習報告】

報告用のシートです。ありがちな全体総括ではなく、実習を午前と午後に分けることで大まかにまとめる事を避け、成果と課題・自身の学びを細かく整理し、受入期間中に多くの気づきを得、成長できるようにするシートです。

最後に上司からのフィードバックをもらうようになっています。